

■第4回三郷学フォーラム

三郷学のすすめ～コミュニティと私たち

石川久

(淑徳大学コミュニティ政策学部)

1 自らを学ぶ

(1) 「三郷学」とは

- ・三郷の資源（人・自然・地勢・産業・交通・歴史・教育・文化など）を再認識し、社会環境の変化を見据え、三郷の歩むべき方向性を探り、実際に行動する「学」。

(2) 三郷学の位置づけ

- ・三郷市自治基本条例や第4次三郷市総合計画の内容を実現するための基盤づくりの政策として「三郷学」を位置づけ。
- ・“多分野”“多世代”の市民・市民活動をつなげる交流の場を提供。
- ・様々な資源（人・物・財源・情報など）の交流を図り、地域力の向上を図る。

(3) 市民が学ぶ三郷学

●三郷学フォーラム

- ・各種団体の活動報告 / 記念講演 / 交流会 / ポスター発表 / 政策提言コンペ
- ・まちづくりワークショップ成果発表 / 協働事業提案制度の事例発表

●三郷学講座 / 歴史講座…など

⇒市民参加、行政全体で取り組み

⇒三郷学検定

2 「地域を知る」ということ

(1) 政策の原点は現状把握

- ① 日常の逆転や対岸の視点から見る
- ② 地域資源の発見・創造
- ③ 推進する力＝地域力

- ・人
- ・モノ
- ・カネ
- ・情報



つながり・豊富化

(2) 地域活性化の実例

① 荒れ果てた斜面が観光と地域活性化の資源... 鴨川市・大山千枚田

② 看板をはずしてみると蔵のまち... 川越市・蔵造りのまち

3 コミュニティの話

(1) なぜ日本で「コミュニティ」だったのか

●1969年国民生活審議会調査部会報告

『コミュニティ生活の場における人間性の回復』

市民としての自主性と責任を自覚した個人及び家庭を構成体として地域性と各種の共通目標を持った開放的でしかも構成員相互に信頼感のある集団を、我々はコミュニティと呼ぶことにしよう。

高度経済成長によって生産関連の機能は高度に発達、一方で、生活基盤整備は遅れ、人々の日常生活の場では、さまざまな問題が発生。

⇒何やら得体のしれない、しかし、何となく目新しい魅力を持った言葉

⇒『つながり』＝絆を連想

(2) 拡大するコミュニティの役割

●2005年国民生活審議会総合企画部会報告

『コミュニティ再興と市民活動の展開』

コミュニティとは、自主性と責任を自覚した人々が、問題意識を共有するもの同士で自発的に結びつき、ニーズや課題に能動的に対応する人と人とのつながりの総体のことをいう。

人々の暮らしの中で様々なニーズが出現している一方、人と人とのつながりに属さない社会的に孤立した人の問題が深刻化。福祉や防犯、子育て、環境など身近な問題について、地域の人々が共通の問題意識を持ち、つながりを形成しながら積極的に対応する姿勢がこれまで以上に重要になってきている。

- ・「エリア型」「テーマ型」のコミュニティ
- ・自己解決能力を備えたコミュニティの役割

(3) 『孤独死ゼロ』を目指すコミュニティ常盤平団地（千葉県松戸市）

4 三郷学とコミュニティ

- ・「土の人」と「風の人」

「地元学には2つの登場人物が必要です。1つ目は「土の人」と呼ばれる地元の人。2つ目は「風の人」と呼ばれる地元外の人。「土の人」と「風の人」が一緒になって地域を歩き、地域に「あるもの」を探していきます。」

<<http://www.pref.mie.lg.jp/MNOKAN/HP/info/jimotogaku/jimotogaku.htm> 参照>

- ・担い手（「人財」、組織・グループ、リーダー）

- ・三郷学検定の役割